

榛原中学校におけるコミュニティ・スクールについて

1 コミュニティ・スクールとは

学校運営協議会を導入した学校のことを言う。

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。

子供達の豊かな成長のためには、学校・家庭・地域が連携し、社会総がかりでの教育の実現が不可欠である。

2 基本的な考え方

- (1) あまり焦って、制度の完成を目指さない。
- (2) 数年かけて持続可能な組織を確立していく。
- (3) 学校の応援団というスタンスが基本である。

3 具体的な動きについて

- (1) 学校運営協議会を設置する。(年3回以上開催する：メンバー顔合わせで0回実施)

学校運営協議会とは、学校運営に関して市教委及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営参画の促進や連携教科を進めることにより、学校と地域住民等との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むことを目的として実施される組織である。

- (2) 学校運営協議会のメンバーについて

大石 友巳(校長) 伊故海 芳則(CSディレクター) 山崎 泰(元教員)
須藤 孝夫(元技術者) 神谷 好一(地域連携) 大石 弘子(福祉・行政関係)
杉山 広美(保健関係) 榎田 哲也(企業関係) 大石 寛之(PTA副会長)

- (3) 学校運営協議会開催予定日と実施内容

令和3年4月6日：顔合わせ、今後の方向性確認、開催予定日確認等

令和3年5月13日：学校経営方針・教育課程の説明、地域参画できること(特に1学期) 体育大会、職業体験候補、奉仕活動など

令和3年9月1日：1学期の反省と2学期の活動

職業体験、50周年記念式典、文化発表会、奉仕活動など

令和4年2月1日：令和3年度の反省と令和4年度の展望

- (4) 学校支援地域本部の開拓

学校運営協議会で決定した活動内容を具体的に支援する組織・団体等

本年度は「学校支援地域本部」を幅広く開拓し、学校の応援団を組織化することが最大の課題。

- (5) コミュニティールームの設置

- ・令和3年度は旧榛の木B教室をコミュニティールームとする。
- ・この部屋に幅広く様々な方から親しまれる部屋になるようネーミングする。
- ・令和3年度は暫定の配置とし、1年間かけて特別支援学級の配置とともに設置場所を決定する。

